

授業科目名	人間病態学Ⅱ	担当教員	◎大石昌也、大塚喜人 細川直登、福武敏夫 田中美千裕、河村誠次 大内洋
必修	開講年次：2年前期	単位：4単位	授業形態：講義 60時間

【授業概要】

病気によって、クライアントに何が起きているかを学ぶため、病気の成り立ちをメカニズム別（病因別）に「病理病態論」としてまず学習し、その不調がどのように症状や徴候として現れるかについて「病態症候論」の枠組みで学ぶ。こうした学習方法がクライアントの病気の観察と理解に繋がるようにコースがデザインされている。

【授業目的・目標】

病気の原因と症状を結びつけて疾病の成り立ちを理解し、疾患についての知識を系統的に把握することを目指す。

【履修条件】

「生物学、人間機能学」を修得していること

【授業計画】

[01] 授業ガイダンス、代謝・内分泌 1 (大石)	[16] 微生物 6 (大塚)
[02] 代謝・内分泌 2 (大石)	[17] 微生物 7 (大塚)
[03] 代謝・内分泌 3 (大石)	[18] 微生物 8 (大塚)
[04] 微生物 1 (大塚)	[19] 脳神経系 1 (大石)
[05] 微生物 2 (大塚)	[20] 脳神経系 2 (福武)
[06] 微生物 3 (大塚)	[21] 脳神経系 3 (田中)
[07] 微生物 4 (大塚)	[22] 脳神経系 4 (田中)
[08] 微生物 5 (大塚)	[23] 脳神経系 5 (福武)
[09] 免疫・感染症 1 (細川)	[24] 脳神経系 6 (大石)
[10] 免疫・感染症 2 (細川)	[25] 脳神経系 7 (河村)
[11] 免疫・感染症 3 (細川)	[26] 運動器 1 (大内)
[12] 免疫・感染症 4 (細川)	[27] 運動器 2 (大内)
[13] 免疫・感染症 5 (細川)	[28] 運動器 3 (大内)
[14] 免疫・感染症 6 (大石)	[29] 運動器 4 (大塚)
[15] 免疫・感染症 7 (大石)	[30] 脳神経系 8 (大石)

【教科書】

1. 北村聖他編集 (2016) 臨床病態学 1 巻, Nouvelle Hirokawa
2. 北村聖他編集 (2016) 臨床病態学 2 巻, Nouvelle Hirokawa
3. 北村聖他編集 (2016) 臨床病態学 3 巻, Nouvelle Hirokawa
4. 北村聖他編集 (2016) 臨床病態学 小児編, Nouvelle Hirokawa

【参考書】

1. 神谷茂、高橋秀実、林英生著他 (2014) ブラック微生物学第3版, 丸善出版
2. 佐藤千史、井上智子編集 (2015) 病態生理ビジュアルマップ 1, 医学書院
3. 佐藤千史、井上智子編集 (2015) 病態生理ビジュアルマップ 2, 医学書院
4. 佐藤千史、井上智子編集 (2015) 病態生理ビジュアルマップ 3, 医学書院
5. 佐藤千史、井上智子編集 (2015) 病態生理ビジュアルマップ 4, 医学書院
6. 佐藤千史、井上智子編集 (2015) 病態生理ビジュアルマップ 5, 医学書院

【評価方法・評価基準】

- 1) 筆記試験 70% 2) 提出物と課題レポート 20% 3) 授業参加態度 10%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：教科書及び予習用パワーポイント資料を確認しておくこと。

事後学習：学生公開用パワーポイント資料を用いて復習しておくこと。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅵ. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

提出物や課題レポートについては、授業中に傾向について示しフィードバックを行う。

【備考】

この科目は、全ての医療系科目、実習に関連する為、真摯に学習に取り組むこと。